

次世代看護・介護用知的対話ロボットの開発

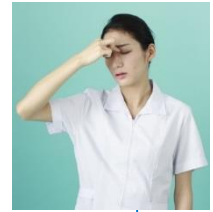
• 背景

少子高齢化 → 医療・看護現場の従事者不足
IT・AI技術の導入による効率化

医療現場に導入されるロボット

→ **人の心を理解できない**ため

看護師、介護士の代わりにはなりえない
心を持たない介護ロボットを導入しても人間の負担は
増え続ける(感情を理解できるAIによるロボットのケアリング補助を期待)



• 狙い

- マルチモーダル介護AIに基づく看護・介護用対話ロボット
 - マルチモーダル情報・・・音声、動作、生体情報(介護のアセスメント情報も)
 - 被介護者の反応をデータ化し、適切な反応を返す
- 深層マルチモーダル強化学習による発達的なメカニズム
 - 対話時の反応(音声、動作、生体情報)をもとに、親しみやすさを最適化
- 柔軟な動作が可能な看護・介護用対話ロボットの開発
 - 首振り、手ぶりなどの柔軟動作と自走可能なロボットを独自に開発